

2学期の教育活動を進めるために

先週の27日の金曜日より、2学期が始まりました。

保護者や地域の皆様には、コロナ禍の現在の感染状況において、学校の教育活動を推進していく上での対応について、ご心配やご不安な思いをおかけしております。

現在、学校としての取組については、これまでもお知らせしておりますが、ここで改めてもう少し詳しくお伝えさせていただきます。

○登校時においては、8時から8時10分を目指して、登校していただくようお願いしています。ご承知の通り、校門の辺りは狭く、多くの児童がいる場所が少ないため、校門が開いている時間を目指しての登校とさせていただきます。また、校門のところでは、子供たち同士のおしゃべりや友達との間隔をあけること、列になって待つこと等の声掛けもしています。

○毎朝の登校時の検温等の対応については、校舎に入る前に検温の確認を行っています。

昇降口が密にならないよう、検温確認することで入室の児童の数を調整しています。

37度以上の児童については、保健室に行ってもらい対応等を確認することにしていきます。

児童の状況によっては、お迎えなどの対応をお願いする場合がありますので、ご了解ください。

○41名となった3年生の教室での学習活動については、できる限り2教室で行うようにし、学習形態も工夫をして、密にならないように学習環境に配慮いたします。

○体調不良等により学校に登校できない児童については、担任と個別にご相談いただき、ICT等を活用したり、様々な状況に応じた取組を確認したりして、対応を行ってまいります。

○友達との間隔における指標の1mの間隔について、各教室で体感的に分かるように工夫した取組を学年の発達段階に応じてお願いをしています。実際の距離を知り、日常生活においても感覚的に友達との距離が分かるようにしていきたいと思っております。

この他にもすでにお知らせした通りに、換気の徹底、体調不良時の対応の仕方等、様々な感染症対策におけるご家庭でのご協力もお願いしているところです。

これからもご理解とご協力を賜りながら、子供たちの安全と安心を図ってまいります。

何卒、よろしくお願いいたします。

エビデンス(根拠・証拠)を基に

現在社会においては、四六時中何らかの媒体を通して情報が発信され、私たちの生活に直接影響を及ぼす時代となっています。自分自身の生活を振り返ってみると、スマホが分かりやすい例になると思います。何らかの情報発信の通知音に反応し、ニュースや緊急速報等限りなくリアルタイムで、今起こっていることを知ることができると共に、どのように対応すればよいか等が分かる利便性の高いツールとなっています。



しかし、ここに落とし穴があります。振り込め詐欺やコンピューターウイルス等、私たちの生活に深く入り込んでいる情報発信の媒体を悪用し、私たちの生活を貶めようとする事案があることも事実です。また、コロナ禍においても様々な情報に便乗して、間違った情報(デマ)や困らせることを目的とした情報等、私たちの不安をあおり安心・安全を脅かそうとする事案も起こっています。

私たち自身が、様々な情報に惑わされずに自分の身を守り、そのことを通して、自分の周囲の人を守るためには、しっかりとエビデンス(根拠・証拠)を基にしていくことが必要ではないかと思っております。ただ、これも情報の1つですので、信頼のおけるしっかりとエビデンスであるかどうかを確認する必要も出てきます。情報を知る場合には、1つの情報に振り回されないように、1つの事案に対して多くの情報を知り、そして、分析をすることが大切です。

コロナ禍における情報もたくさん発出されていますが、今の段階で確かなことは、「あい・て・ます・か」の三密回避とマスクの着用、体調管理と体調不良における早め早めの行動と診療、また、この状況下における心の在り様としては、相手を思いやることに通じる自分の身を守る意識等、これまでの取組と分析の成果であるエビデンスとして活かしていくことが求められているところです。コロナ禍の状況が収束に向かっていくために、共に基本の徹底に努めてまいりましょう。

教職員としての資質向上への取組

私たち教員や学校職員は、教育職員として、それぞれの職層や立場における能力や専門性を高めるため、研修を受けたり、校内で研修会を開催したりして、資質の向上を図っています。

例えば、現在の教員は、教諭・主任教諭・主幹教諭・指導教諭・副校長・校長等、職層に応じた研修を行うことになっており、初任者であれば初任者研修、2年目の先生では、2年次研修等々が設定されており、授業力や行事運営力、様々な出来事への対応力等、教員として必要な能力を身に付けるようにしています。

様々な研修がある中で、校内において行う研修の一つとしては、サービス事故防止研修があります。教職員として、法令に基づき守らなければいけないこと、身に付けるべき能力や態度などを学び合い、児童との学校生活における教員としての資質を高めるよう努力しています。各年度の中で、複数回実施をし、常に教育公務員としての職務を理解し、従事することへの意識の向上を図ります。

4月当初には、異動の先生方を含め、勤務時間や休憩時間、休暇取得、各自が取り組まなければならない研修の取り組み方等、確認をするようにしています。また、今年度の1学期終了時には、体罰根絶に向けたサービス事故防止研修を行い、本校では私が講師となって先生方に指導をし、事例を基にした話し合い等に取り組ませ、教職員として何を守り、何を防いでいくか等を学んでいます。

体罰防止については、毎年、体罰根絶宣言としてスローガンを掲げ、体罰によらない児童への指導を行うことができるよう全教職員で学んでいます。令和3年度のスローガンは「**聞いて 認めて 寄り添って**」です。まずは、先入観をもたずに公平に子供たちの言葉や気持ちを聞き、子供たちの行動や思いを認め、子供たちの行為や行動に寄り添いながら、子供たち一人一人を受け止めて指導していけるよう努めているところです。教員としての力量を高め、児童が安心して通うことができる学校作りに、更に努めてまいります。



校長のつぶやき

目の前の一人の人を大切にしながら



これまで多くの子供たちと関わってきました。計算をしたことはありませんが、担任時代では、全学年を担当し、少人数指導も4年間担当しました。副校長や校長になると直接指導をする児童は多くはありませんが、改めて考えてみると、総計でおよそ1300人以上になると思います。

また、それ以外に、小学生のころから合唱団に入り、セカンドライフのように合唱と携わってきました。合唱指導や指揮者としての活動をしてきたこともあり、多くの教え子もできました。こちらは、計算ができない程、多くの人たちと関わってきましたので、全くの概数ではありますが、2000人近くの方との活動となるようです。それ以外にもイベントなどでの関わりもありましたので、全てを含めれば、総計5000人近くの方々に指導や助言をしたり、交流をしたりしたことになります。

その中には、世間の皆さんがご存知だろうと思われる教え子もいます。迷惑がかかってもいけませんので、名前は出しませんが、とにかくたくさんのお教え子がいることには間違いはありません。

ずっと関わっているという訳ではありませんが、自分が考えていた以上に当時のことをよく覚えていてくれたり、私との思い出を大切にしてくれたりしている方もいます。また、同じ大学を目指し後輩になった方や教員になった方も多くいて、人と関わることでの影響の大きさに一時期は少し戸惑いもありました。本当に有り難いことであり、教育者として、指導者として、これほど嬉しいことはなく、特に校長の立場となった現代においては、人を育てる仕事の尊さと責任の大きさを改めて感じている日々です。また、残念なことではありますが、教え子の中には、早逝された方もおり、連絡をいただいた時の悲しみと無念さは、言葉には表せられませんでした。今も私の中には、大切な教え子の一人として当時の姿のままに生きていくのと同時に、これからも私の中に大切に残していく思い出となっています。

最後に、教育者として、また、一人の人間として、不思議な縁で出会った第七小の子供たちと保護者の皆様、地域の皆様です。私の新たな人生の1頁の大切な方々として、心に刻んでまいります。

